

伝統行事「雛の文化まつり」の充実を図る

中津井やまびこ会

活動の目的

昨年10月8日(日)～9日(月)に、日本昔話を中心のテーマとした水力のカラクリ人形等を展示する「第4回いやしの里備中中津井カラクリ祭り」を、本年3月24日(土)～25日(日)に「第17回備中中津井雛の文化まつり」を開催、民家などに古式雛等の展示。児島の塩田王「野崎家」への輿入れ道中等や地元住民による各種催し、特産品の販売等を行った。

活動の内容及び経過

地区住民が集まり、平成14年3月に「第1回中津井雛の文化まつり」を開催、平成17年3月の第4回のまつりから駕籠による道中行列を始めた。平成22年3月の第9回のまつりから馬の輿入れ道中行列を、平成26年のまつりから「双鶴の舞い」も実施している。

本年度は、5月に総会を開催し、7月から準備に入り、人形の制作、広報を行い、10月8日(日)・9日(月)に「第4回いやしの里備中中津井カラクリ祭り」を開催し、水力のカラクリ人形を29基と水車、ミニチュアの古民家などを展示、ピオーネ、シャインマスカット等地域産品の販売を行った。「雛の文化まつり」は、本年1月から広報を始めたほか、2月に桃枝を採取、最終調整会議を行い、3月に入り、花を飾る竹の加工や柳、椿、菜の花等の採取、各戸の紋幕等、通りの飾りつけ、24日(土)から25日(日)に「第17回備中中津井雛の文化まつり」を開催した。約30戸の民家などに享保雛、古今雛、小学校や福祉施設の高齢者の創作雛、文化協会会員の俳句、短歌、等の展示。江戸時代末期から二度にわたり行われた、地元「庄家」から児島の塩田王「野崎家」への輿入れ道中の再現し、24日には駕籠による行列、25日には馬による行列を行った。また、行列の前に、「傘踊り」、鶴が通りで出会う「双鶴の舞」、オロチ退治をテーマとした「新神楽」を行った。

活動の成果・効果

- 年々、知名度も高まり、中国・近畿地方からも観光客が訪れるようになり、二つのイベントで約1万人の人で賑わった。
- 中津井地区は古くから栄え、吉備の大宰「石川王」の墓と言われ、国指定となっている「大谷・定古墳群」などの多くの古墳があるほか、伊勢亀山藩の飛地領として江戸時代末まで藩の陣屋が置かれたところで、その歴史のなごりを紹介できた。
- まつりの運営や地域の人が出展したテント村では、地元の「けんちんそば」、「鯖寿司」などの食べ物や地元特産



の「ピオーネ」、「シャインマスカット」、「手作り陶器」、「手芸品」等を販売をすることで、地域の活性化と地域でまつりを盛り上げようとの連帯感が強まった。

- 雛まつりと文化協会会員の作品や園児・児童・老人福祉施設の方の手づくり雛などの展示、舞台では中学生のバンドや文化協会会員等の演奏、踊りなどを行い、地域文化の発信に寄与できた。

今後の課題と問題点

- まつりは手づくりで経費を最小限に抑えているが、今後、資金の確保が課題である。
- まつりの準備や実施には大勢のスタッフが必要で、準備の期間が長くかかるが、地域住民の高齢化が進み、準備、運営スタッフや行列出演者の確保に苦慮している。
- 多くの観光客が訪れるようになり、自家用車やバスなどの駐車場として、小学校など4カ所を用意しているが、厳しくなっており新たな駐車場の確保が課題である。
- 民家も高齢化や空き家も増え、雛の展示場所の確保も厳しくなっている。
- まつり備品等が増え、収納場所に苦慮している。

- 代表者：池田安夫 ●所在地：真庭市下中津井
- TEL：0866-52-3815 ●E-MAIL：huetani@rose.ocn.ne.jp
- 設立年：2001年 ●メンバー数：346名